

4年4組 いきいきタイム学習活動案

場 所 4年4組教室
児 童 男子14名 女子16名 計30名
指導者 設樂 健司

1 単元名 「伝え合う心と心」

2 単元の目標

- (1) 障害を持つ人たちの立場や取り巻く環境に関心を持ち、進んで調べたり体験したり考えたりしようとする。 【総合への関心・意欲・態度】
- (2) 体験したことや考えたことをもとに、課題を理解することができる。 【課題設定の能力】
- (3) 課題を解決するために、友達と協力して活動することができる。 【協力・協調して活動する能力】
- (4) 「伝え合う」ことを意識し、何を伝えるかを考えながら、体験したり調べたりすることができる。 【問題解決の能力】
- (5) 調べたり体験したりしたことをもとに、自分なりの意見を持ち、その表現の仕方を工夫し、伝え合うことができる。 【学習活動にかかわる技能・表現力】
- (6) 自分なりの考え方もち、これからの生活に生かそうとする。 【自己の生き方を考える能力】

3 単元について

(1) 設定の理由

本単元は、3年生から積み上げてきた地域の人とのかかわりをさらに継続発展させる学習としての性格を持たせたいと考え設定するものである。

児童は3年生のときから社会科見学をはじめ、総合的な学習の時間の中でもたくさんの地域の人たちと接してきた。また、地域に出かけていって、直接自分たちの目や耳、体を通して自らの課題を解決してきた。前単元でも岩崎川について1学期間を通し、実際に調べに出かけたり、役場の方々や地域の詳しい方に話を聞いたりして地域学習を進めてきた。そのねらいは、地域の人たちが地域の発展のために、あるいは、矢巾町に住む多くの人たちのために、知恵を出し合い、汗を流し、そして、仕事に情熱を傾け生きている生の姿に接することにあった。その学習を通し、個人差はあっても「素晴らしい人たちがいる。」「あの仕事の仕方はすごいな。」「ぼくもあんな仕事がしたい。」という心を揺さぶる経験を数多くしてきた。

これまでは「仕事」という視点での学習であったが、本単元では「障害」という視点での学習としたいと考える。障害を持ちながら、たくましく生きている人たちの生き方やその実際に触れることで、障害を持つ方への偏見を取りのぞき、児童自身の考え方やものの見方に、4年生なりの深まりや広がりを加えたいと考え、本単元を設定した。

(2) 児童の実態

児童は、1学期間、『岩崎川調査隊』というテーマで、社会科の上下水道やゴミの学習と関連づけて、実際に施設見学に行ったり、自分たちの課題解決のため何度も調査活動に出かけたりした、その調査結果に基づき、ポスター形式などでまとめさせ、グループごとに発表しあい、相互評価を行いお互いのよさを学び合った、その際、実物を使って説明したり、発表内容をクイズ形式で聞き手に問いかけたり、写真やグラフなどを用いたりするなどして、「聞き手に分かりやすく」を意識した発表会となった。この発表会の前に、5年生の発表会に招待され、資料作りや発表のスピード、内容、声の大きさなど、よりよい方法を学ぶ機会があり、より高まった資料作りを行おうとする動機付けとなった。また、発表会では、3年生も発表を聞きに来たことで声の大きさを意識したり、聞いている人に分かりやすく発表したりしようという気持ちをもつことができた。しかし、日常の発表では、相手の方を見て話すことや声の大きさやスピードなどに気をつけないこともあり、相手に分かりやすく発表しようとする態度や意識は、十分とは言えない。

本単元にかかわる事前のアンケートでは、「『福祉』という言葉聞いたことがある」という児童はいるが、その意味については「分からない。」と回答している。障害をもつ方との関わりは、直接触れ合ったことがある児童はそれほど多くはないものの、町で見かけたりテレビで見たりしたことがあるという児童は多かった。「障害を持つ方についてどう思いますか。」という質問に対しては、「自分たちとちがって自由にならない」、「たいへんそう」、「かわいそう。」というように書いた児童が多い。中には、「がんばっている」、「障害があっても自分たちと同じ」と考えている児童もいた。

本単元を通し、『福祉』学習のスタートとして、障害をもつ方の立場に立つ体験や直接的・間接的に話を聞く活動などの交流学习を通じて、現時点の児童の考え方や見方に揺さぶりをかけることにより、深まりや広がりを持たせていきたい。そして、「だれかのために、自分にできるなにかをしたい。」という気持ちを培っていきたいと考える。

(3) 指導にあたって

「つかむ」段階では、道徳の資料を用いて障害をもつ方々のことについて話し合い、スムーズに、簡単なキャップ・ハンディ体験に結びつけ、「障害」という問題の意識をもたせていきたい。

「さぐる」段階では、障害をもつ方との交流と体験を重視していく。それは、体験をもとに、その実際場面と五感を使って感じたことや思ったことを、自分なりの事実としてとらえさせ、「話し言葉」や「書き言葉」として、自己評価的にまとめさせることにより、児童の考え方・見方に深まりをもたせ、それを意識づけたいと考える。

「まとめる」段階では、「誰に」という観点で相手意識をもたせながら、体験したり考えたりしたことをもとに発表方法・表現方法を工夫させていきたい。また、学級間・グループ間の相互交流の場を「中間発表」という形で設定することにより、お互いのよさを学び合うことを体験させたい。その中で、より相手に伝わる発表や話し方を相互評価させるとともに、他のグループのよさを見つけるといった聞く観点を与え、自分たちのグループに建設的に生かすようにしていきたい。

「いかす」段階では、学年交流会を通して、感じたことをまとめさせ、今後の生活に生かせるよう助言を与えていきたい。

各段階において、国語科『新聞記者になろう』で学習した事実の書き方と感じたことや考えたことを分けて書いたり発表したりする中で、次の学習での意欲づけを図りつつ、個々の児童に意識の深まりを感じさせていきたい。

4 単元の活動計画 30時間扱い

段階	予想される児童の活動	時間	児童の活動を支援する手だて	評価の観点と評価計画	活動形態
つかむ	1 道徳資料『心の信号機』を読み、障害のある方について話し合う。 どんな障害をもつ方と接したことがありますか。	関連	* 道徳の時間を活用し、資料をもとにしながら、障害をもつ方と接した経験のある児童の体験談も交え、関心をもたせる。		学級
	2 簡単にできるキャップハンディ体験をする。 目が見えないことってどんなことだろう	2	* グループ活動とし、本『みえないってどんなこと』を活用しながら体験内容を決めさせたい。体験する側と支援する側に分かれ、それぞれの立場で感じたことをまとめさせたい。	活動したことを通し、テーマにそって感じたことをまとめることができたか。 【発言・ワークシート】	グループ

	<p>3 障害をもつ方について調べる。 どんな障害をもつ方がいますか。 《調べ学習をする》 ・本やインターネット ・家の人に聞く。 《発表する》</p>	2	<p>* 調べる観点を示しながら、調べ学習を導くことによって、他の「障害」についても関心を持たせたい。 《調べる観点》 ・どのように話すか ・どのように聞くか ・どのように読むか ・どのように行動するか ・どのように見るか</p>	<p>調べる観点到って調べるこができたか。 【ワークシート観察】 積極的に活動し自分なりの感想をもつこができたか。 【観察ワークシート】</p>	個人
	<p>4 いろいろな体験をする それぞれの障害をもつ方の立場になって体験をしてみましよう。 ・白杖体験 ・点字体験 ・手話体験 ・車椅子体験</p> <p>体験したことをスピーチメモにまとめ発表しよう。 ・事実 五感で感じたこと 自分の考えと感想</p>	4	<p>* 町の福祉協議会の方に協力していただき、キャップハンディ体験をする。その際、児童の興味・関心によって選択させる。</p> <p>* 国語『十才を祝おう』と関連づけ、話の中心や構成の仕方を工夫して発表会を開く。 * 発表会では自分の考えと比べさせたり、他の体験の様子を聞いたりすることにより、さらに詳しく調べてみたいことを意識させ、個人課題につなげていく。</p>	<p>自分の考えと比べ、よさを見つけるこができたか。 【ワークシート】 積極的にかかわりをもとうとしたか。 【観察 自己評価】</p>	個人
	<p>5 学習課題を設定する。 個人課題をつくろう 課題ごとにグループをつくり、学習計画をたてよう</p>	1	<p>* 最後には調べたことを工夫して発表することをあらかじめ示し、発表会を意識させ調べ学習に取り組みせていきたい。</p>	<p>個人課題をつくるこができたか。 【ワークシート】</p>	個人 グループ
さ ぐ る	<p>6 計画にしたがって調べたり、体験したりする。 障害をもつ方との交流 ・ミニ講演会 ・ビデオ、映画 本インターネット 体験的な学習 施設の見学</p>	8	<p>* グループ活動だけでなく、全体で行う共通体験も入れ、課題解決の方法としたい。</p>	<p>グループで考えた計画に従って、調べたり体験したりしているか。</p>	グループ

	7 これまでの学習をまとめ。 ・調べたり体験したりした事実 ・事実から分かったこと、考えたこと、感じたこと ・一番伝えたいこと	3	* これまで積み重ねてきた学習シートを活用し、個人でまとめたり、グループで話し合ったりしながら、「誰かに」「一番伝えたいこと」をまとめさせたい。	今まで調べたことを事実と感想に分けてまとめることができたか。	個人 グループ
まとめめる	8 伝える方法を考える どんな方法で伝えますか。 《計画作り》 ・だれに ・どんなことを ・どのように 《準備》 ・シナリオ作り ・必要な物の準備 ・役割分担 ・練習計画 《練習》 中間発表会をしよう 《修正》 ・シナリオの修正 ・練習	8 本時 3/8	* 「目の見えない方に伝える。」 「耳の聞こえない方に伝える。」など、相手意識をもたせ、相手に合った方法を考えさせたい。また、手話や点字など、実際に学習した方法や、身体を使った表現の仕方も取り入れるよう支援する。 * 他のグループや学級の発表の様子を知り、自分たちの表現方法を見直す機会としたい。より伝わる方法について、グループごとに話し合わせていきたい。	伝える相手のことを考え方法を見つけることができたか。 【ワークシート観察】 計画に従って、積極的に準備を進めているか。 【ワークシート観察】 他のグループのよさを見つけ、自分たちのグループに生かすことができたか。 【ワークシート】	グループ
いかす	9 学年発表会を行う 10 伝えたい相手に伝える 11 単元を通した感想をまとめる。	1 関連 1	* 他のグループの活動のよさを学ぶとともに、自分たちのグループの活動を再認識させその値打ちに気づかせたい。 * 直接伝えられない場合は、手紙やビデオなどを使って伝えさせていく。	これからの自分の生活について考えることができたか。 【作文】	個人

5 本時の学習活動

(1) ねらい

グループで考えた計画をもとに発表の準備をすることができる。

他のグループに自分たちの考えを伝えたり他のグループの発表を聞いたりして、自分たちの計画に生かすことができる。

(2) 展開

段階	学習活動	時間	教師の支援(＊)と評価()
つかむ	1 前時までの活動を想起する。 2 本時のめあてを把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> 分かりやすく相手に伝わるように、 発表の準備をしよう。 </div>	5	* グループの計画を確認し、本時の活動の意欲を高めるようにする。 * 誰を対象として発表するのかという視点をもたせることで、発表の方法を工夫しようとする意識をもたせる。
さぐる	3 計画に従ってグループごとに発表の準備をする。 ・手話を練習する。 ・点字を取り入れる。 ・絵本や劇を考える。 ・役割を考える。	25	* グループごとに話合いや準備ができるような場を設定する。 * 手話や点字などの資料を参考にできるように用意する。 * 作業の進まないグループには、誰に伝えたいのか、そのためには、どんな発表を考えればいいのか助言する。 資料の作成や発表の準備を協力しながら進めている。
まとめる	4 発表内容について話し合う。 ・自分たちの考えを発表したり、他のグループの発表を聞いたりする。 ・分かりやすく伝えることについて話し合う。	10	* 工夫していた点や困っている点を発表させ、今後の活動に生かせるようにする。 自分たちや他のグループのよさに気付くことができる。
いかす	5 次時への見通しを持つ。	5	* 本時の活動を振り返り、次時の活動の見通しを持たせる。